

6361 - 658

平成19年6月25日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成19年度病害虫発生予察注意報第2号について

平成19年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第2号

平成19年6月25日

宮 崎 県

病害虫名 斑点米カメムシ類
作物名 早期水稻

1. 発生地域 : 早期水稻栽培地帯
2. 発生時期 : 出穂期以降
3. 発生程度 : 多

4. 注意報の根拠

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生面積率は28.9%（平年値15.9）で平年よりやや多、20回振りすくい取り虫数1.9頭（平年値0.4頭）は平年より多く、出穂前の本田への早い飛来が認められた（表-1参照）。
- (2) クモヘリカメムシの密度が高く、ついで、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類の順であった（表-2参照）。
- (3) 水田周辺におけるイタリアンライグラスほ場での生息密度は、県全体平均14.1頭（平年12.3、前年14.3）で平年並みであるが、地域によっては一部特に高いほ場が見られた。（県中でミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシが多い）
- (4) 今後の天候は、気温は平年並みまたは高い、降水量及び日照時間は平年並みまたは多いと予想されている（鹿児島地方気象台1ヶ月予報6月22日発表）ことから、カメムシ類の活動に好適であり注意が必要である。

5. 防除対策

- (1) 地域内で出穂の早い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。
- (2) 防除時期は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本であり、高密度の場合はさらに追加防除が必要である。防除薬剤は穂いもちとの同時防除剤の使用が効率的である。
- (3) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、広域の集団一斉防除に努め防除効率を高める。
- (4) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。
なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払う必要がある。周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

表 - 1 斑点米カメムシ類の生息密度（地域別平均）

	発生面積率(%)			すくい取り虫数(20回振頭数)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
県北	33.3	16.7	/	0.5	0.5	/
県中	33.3	8.3		2.8	1.7	
県南	12.5	25.0		0.1	0.3	
全県	28.9	13.1	15.9	1.9	1.1	0.4

数値は、ミミアカメムシ、クモアカメムシ、ホリアカメムシ、シラホシカメムシ類、アカシガメムシの5種合計の平均値

表 - 2 本田における種別平均：頭数

	ミミアカメムシ	クモアカメムシ	ホリアカメムシ	シラホシカメムシ類	アカシガメムシ	全種
県北	0.00	0.33	0.00	0.17	0.00	0.50
県中	0.00	1.71	0.13	0.00	1.00	2.83
県南	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.13
全県	0.00	1.13	0.08	0.05	0.63	1.89

連絡先
 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター（加治佐）
 TEL：0985-73-6670
 Fax：0985-73-7499
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp